

5分で読める

一からわかる再配置



H26.9.29

Vol.10

公共施設の再配置に関連する基本的な情報をお知らせします。

財政再生団体へ？

今月 21 日、千葉県富津市が、2018 年度には、破綻状態とされる「財政再生団体」に転落するおそれがあるという報道がされました。

同市によると、今年度の決算見込みは辛うじて黒字となるものの、市の貯金である財政調整基金の残高がわずかに 1 億 5000 万円しかなく、来年度決算からは赤字となって、2019 年度までに約 28 億円の累積赤字となるおそれがあるということです。（以上毎日新聞より）

富津市は、千葉県南西部の東京湾沿いに位置し、面積 205.35 m²、人口約 47,000 人の海と山に囲まれたまちです。市域が広いこともあり、市民 1 人当たりの公共施設床面積は、約 3.42 m²（秦野市は約 2.00 m²）と多めで、公共施設の見直しにも取り組むこととしています。

しかし、富津市の事例は、超高齢化・人口減少による社会保障の増・税収の減に直面する多くの自治体にとって、他人事とは言えません。

財政再生団体と言えば

「財政再生団体」と聞くと、北海道夕張市が思い浮かぶのではないのでしょうか。

夕張市は、平成 18 年度に財政破綻。当時の法律による「財政再建団体」として、また、新法の「財政再生団体」として、財政再建計画及び財政再生計画に基づいて、国の管理の下に財政再建を図ることとなりました。具体的には、職員数の大幅削減、職員給与カット（一般職 30%、特別職 60~70%。さらに手当も大幅カット）、議員報酬 40%カット、各種市税・使用料の値上げ、図書館・美術館他公共施設の廃止、小中学校の統廃合（小 7 校・中 4 校から各 1 校へ）、補助事業を始めとする多くの市単独事業の廃止などにより、借金の返済を行うという非常に厳しい計画です（夕張市財政再建計画より）。

財政再生団体の指標は

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、4つの指標（実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率）により自治体財政の健全化を判断し、一定の基準を超えると「財政健全化団体」に、さらに悪化すると「財政再生団体」に位置付けられます。

秦野市の現状は

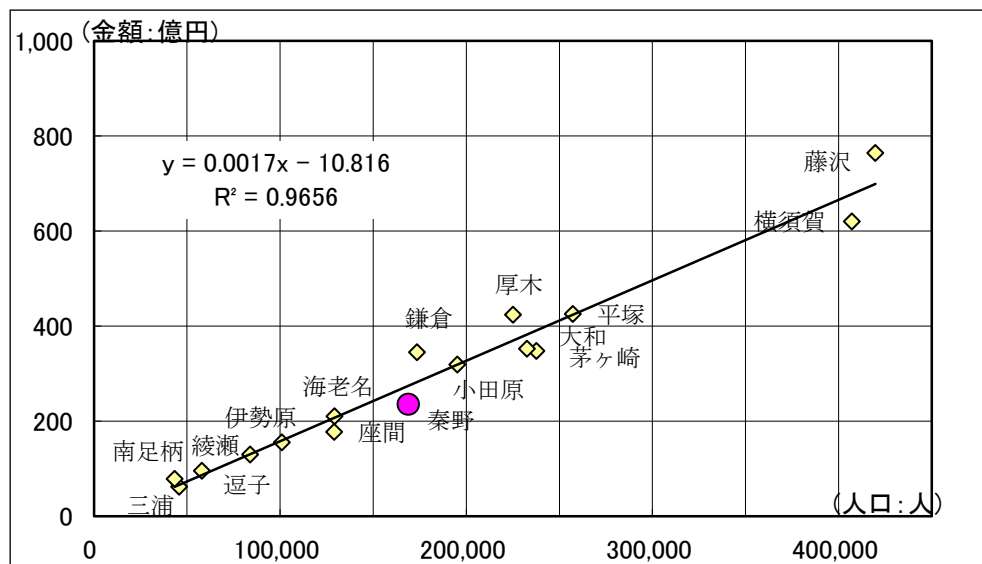
上記の4つの指標のいずれも、秦野市は健全な状態にあると言えます。しかしながら、市民1人当たりの市税負担や財政力指数は決して高いとは言えず、引き続き、健全な行財政運営に取り組む必要があります。

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
秦野市 (H25)	— (黒字) (11.85%) [20%]	— (黒字) (16.85%) [30%]	3.9% (25%) [35%]	42.7% (350%) 基準なし

※ () 内の割合は、「財政健全化団体」となる早期健全化基準を表します。

※ [] 内の割合は、「財政再生団体」となる財政再生基準を表します。

【県下各市の人口と市税収入額の比較】



【本市の財政調整基金残高の推移】

